

おとこ愛人

南洲吟道会定時総会 & 温習会開かれる

定時総会 & 温習会が五月三日(日)ゴールデンウィークの中日でしたが、鷺宮地域センターにて開催されました。当日は天候に恵まれ定刻には万障繰り合わせた会員の皆様が集まり、出席者九九名うち委任状三一名を以て総会成立が宣言され平成三年度の各報告、四年度事業予定等が逐次審議され、満場異議なく承認されました。各種入賞者披露には多くの会員が優秀な成績を収め、更めて南洲吟道会の実力の程に感じ会場からは大きな拍手が湧き起こりました。

会長の挨拶の中で「天地自然の恩・親の恩・師の恩 社会の恩」に感謝しつつ、「敬天愛人」の心で進みましょう、と言う言葉が何よりも印象に残った総会でした。報 一一時三〇分より温習会が始まり、日ごろの練習の会 成果を会場一杯に轟かし、充実した時が流れて温習会 会も無事終了した。息つく暇なくパーティ会場に早替わ 道して、和やかな懇親会となった。 振興部長と龍陽 吟 教場の皆さんの手作りの御馳走が並び、アトラクショ 洲 ンも、歌あり、吟あり、踊りあり、書道吟ありで特に 南 小谷八様さんの民舞「おこさ節」が華をそえ、女性ダ ン シングチームまでが登場し南洲吟道会ならではの盛 り 上がりを見せてくれる中、四時三〇分に終了しまし た。 総務局中心に準備を戴き有難うございました。今年 残念ながら出席出来なかった会員の皆様は、来年は是非とも参加して下さい。

上村健二(健洲)様
叙勲に輝く

八王子同好会上村健二(健洲)様は平成四年春、勲四等旭日小綬章受章の栄に浴されました。五月十七日橋本清祥師宅にて龍陽先生を迎え八王子同好会全員が集まり、叙勲のご披露と同好会より花束贈呈、祝吟があり橋本章洲様の手料理に、心のこもった祝賀会が盛大に開かれました。 当会としても衷心よりお慶びを申し上げます。



祝叙勲
平成薫風 万界満 青春情熱 愛国捧
茲拝受 叙勲栄誉 上村閣下 弥栄隆
平成四年五月 宝方孝三
上村閣下

平成四年五月一日
南洲吟道会
白鷺
中野区
2-34-5
03-3330-7009
会長 吉永龍
吉永龍
吉永龍
吉永龍

◎平成四年度秋の温習会は
九月二三日(祭)
高円寺会館に於いて
開催する事になりました。

平成四年度
春季昇段審査本查会

於鷺宮地域センター
四月二六日(日)

菜の花の薫る昇段審査会会場に審査員として総本部 常務理事森森神先生をお迎えし会長とお二人で厳正な 審査のもとに受験者一同は、緊張した雰囲気の中で日 ごろ勉強の成果をベストを尽くして発表しました。 会場の熱気覚めやらぬ中、審査終了後先生方の模範 吟を拝聴出来て幸運でした。

師範	二名	奥伝	二名	三段	二名
準師範	一名	六段	四名	初伝	七名
八段	二名	五段	五名	二段	二名
七段	一名	中伝	四名	初段	二名
以上三四名 五月八日付 昇段					
助教授	二名	九段	五名	総本部審査をへて	
秀伝	二名	皆伝	二名	同日付昇段	

春の日本吟道全国大会

平成四年五月二四日(日)川口総合文化センター大ホールに二千余名が集い、第二四回日本吟道全国大会が開催されました。降ったり止んだり雨模様の中で六八名の会員が参加し、初めて男女2組に分かれての合吟となりました。恒例の合吟コンクールは「胡隠君を尋ぬ」を吟題として次の皆様が出場されました。 山田志祥、福島幸祥、菊田貞祥、金井恵祥、富沢富祥 新村径城、長崎育城、金子晴水、菊田正水、浜口昭子 同志の熱い声援に応じて、数々のハプニングを乗り越え、二三チーム中五位に入賞し銅メダルを獲得されました。 バンサイ!!

今年には創始総裁龍神先生が亡くなられて満一〇周年にあたり、式典では御遺徳を偲んで、御遺詠「歌々吟」をはじめ、常務理事の先生方によるご遺作の吟詠は、亡き龍神先生を彷彿とさせました。 又式典の中で晴れの高齢者特別表彰シルバー賞に輝いたのは、難波節祥、東浜春祥、富沢富祥、の皆様で龍陽副会長からの花束が贈られました。今後益々のご活躍をお祈りいたします。最後に吟道普及功労褒賞として加藤孝城師の名前が披露されました。

正△会員二〇名となる

当会より新たに次の方々(社)日本吟道学院正会員として四月一八日の総本部理事会で承認されました。 井口公祥(熟年) 東浜春祥(熟年) 吉永旭城(龍陽) 古川綾城(船橋) 牧野君水(熟年)

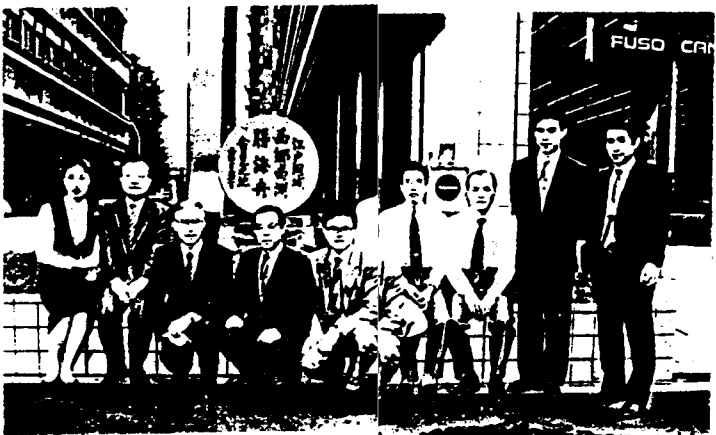
リレー探訪 教場めぐり—その(1)

三菱自動車吟道部

私達の教場は、JR山手線田町駅から徒歩3分の三菱自動車ビルBにあります。

この地、ご存知旧薩摩屋敷の跡で、我等南洲吟道会員一同が敬愛してやまない、あの西郷南洲翁が官軍の総大将として幕府方勝海舟の願いを容れて無血江戸開城の会見を行ったゆかりの地です。

(ビル敷地の一角にその記念碑があります。写真) 月曜の夜ともなると、同好の士がいそいそとここに集まってきます。そして、吉永先生のもと、和やかな雰囲気の中でいつも奇しき因縁と誇りを感じながら、練習に励んでいます。



当教場では

一に詩吟で二が詩吟三
四がなくて五が

酒吟

会員同志の皆さん是非一度お出掛け下さい。当教場自慢の酒吟で大歓迎しますよ

創設 昭和五八年七月

創設者 池田成順 (南洲吟道会顧問)

那須野義清 (当部の顧問)

橋本清祥理事 (指導局局长 当部顧問)

指導者 吉永龍洲会長 吉永龍陽副会長

練習日 毎週月曜日 六時三〇分〜八時

教場長 鈴木正祥理事 (広報局局长)

部員数 二十二名

連絡先 見立雄城 (当部副幹事)

☎〇三二五三三二一七〇八六

次回は池尻教場にバトンタッチします。

◎ 各局同会云議

指導局 四月二十九日 一時〜四時 本部

広報局 五月十九日 六時〜八時 三菱自動車三田

総務局 五月三十一日〜六月三日 佐藤 小泉

事業局 六月一日 七時〜九時 三菱自動車三田

〃 四日 八時〜九時 阿佐ヶ谷教場

☆ 国立劇場に相次いで出演



▲「春の宴」

四月十七日(金) 吉永龍陽副会長は薩摩琵琶「鶴翔会」の一員として選抜され「春の宴」の一節を独吟されました。富沢富祥さん他二十七名の会員が応援にかけつけました。琵琶の壮麗なひびきの中での副会長の舞台は鳥肌が立つ程の感銘をうけ、未だに話題となっています。

また長部三祥長老(池尻)夫人豊子様(八十六歳)は日本舞踊「あやめ浴衣」の舞を若々しく独演されました。豊子様いつまでもお元気で活躍下さい。

☆ 華金 夜桜吟行会

若鷲教場

四月三日(金)は二日続きの晴天に恵まれ桜は満開の見頃を迎え、教場での稽古は一時間余りで切り上げ、中野区内の名所 哲学堂公園の桜の下に教場を移して、夜桜を堪能いたしました。

花よりダンゴよろしく龍陽先生はじめ有志の皆様のお膳立ては細やかで、飲み物 お料理 ダンゴ 果物など盛り沢山の好物を運んで乾杯 少々の寒さは吹き飛ばす、楽しい夜桜の宴を楽しみました。

夜桜の下での吟詠も亦素晴らしく、毎年やみ付きになりそうです。 金井恵祥記

☆ 新会員の紹介 ☆

◎ 坂本一夫 (池尻教場) (佐藤勝祥紹介)

越谷市大字袋山二二八二〇メゾン潮田一〇一

☎〇四八九一七七一九一四一

◎ 浜口昭子 (龍陽教場) (新村徑城紹介)

練馬区向山四一二二一九

☎三八二五一三二二五

平成三年は南洲吟道会にとって飛躍の年でした。六月、定例総会で、役員の変更と組織が改正されました。会長、副会長を中心に総務局等五局十二部からなる新しい体制と役員が決定し、それぞれの局長を中心に年間行事の計画と運営が行われることになりました。

その最初の催しが指導局中心に実施された「夏期特別講座」です。当日八月十八日(日)は猛暑の中六十三名の受講者が集まり盛会となりました。受講内容は「コンダクターの使い方及び前奏の実習」「漢詩和歌の吟指導」で吉永両先生から準師範以上の受講者を中心に高レベルなご指導をいただきました。コンダクターの使い方実習は、直ちに実行出来る簡にして充分な内容で、会場は三十数台のコンダクターによる大演奏会となりました。「コンダクターを買ったが演奏が出来ない。あげくの果てに埃だらけとなり押し入れの奥に仕舞いこんでいた」という会員も多く今回の研修会はコンダクターにとっても久し振りに明るい光りにあたる事ができてさぞ満足な事だったでしょう。吉永龍洲先生から正しい実技指導を受けた受講者、特に指導的立場にある上級者は今後、より自信を持ってコンダクターを使いこなしてゆかれることと思います。報告に吟詠指導では、律詩「帰省」絶句「貧交行」和歌「秋の歌三題」を吉永両先生からご指導いただきました。会秋の歌三題」を吉永両先生からご指導いただきました。道律詩「帰省」の中に7の大廻しが五ヶ所もあり、それ吟それぞれ違った”ゆり上げ、ゆり落とし方”をしている南洲点を特にご指導をいただきました。吉永龍陽先生の講演「秋の歌三題」の中で「名月夜」は夏期吟道大学でも講義され当会員は優れた指導者に恵まれ幸いです。熱心な両先生のご指導のもとに暑さも忘れ有意義な研修会となりました。これを契機に会員は更に自信と誇りをもって吟道に精進していくことでしょう。なお今後南洲吟道会では外部の方にも門戸を開いた講習会等の実施も考えて行く予定です。

九月二十二日(日)杉並区高円寺会館で秋季吟道温習会が開催されました。事業局中心に準備が進められ、当日は爽やかな秋晴れとなり会員も続々と元気に集合し定刻丁度開会されました。

南洲吟道会が誕生して十八年になります。大西郷の精神のもとに「敬天愛人」と「吟道報恩」を活動の二本の柱とし、吉永両先生の暖かいご指導のもとに会員は吟道に精進してまいりました。舞台の両サイドに掲げられ、会員の心は和して一つとなりこの温習会にのぞみました。午前十時大会実行委員長による開会の辞、「敬天愛人」の大合吟が行われ第一部会員吟詠に移りました。岡田純明、高松竹龍両先生の尺八と恩田等水先生のお琴の音にのって独吟、構成吟といずれ劣らぬ名吟熱演が続きわが吟道会の実力が遺憾なく発揮されました。第二部は会員吟舞で、日頃精進の吟者に合わせその優雅で気品に満ちた舞を披露、吟舞一体と

なって、満場を魅了しました。

第五部、第六部と会員吟詠が続き吟調も一段と素晴らしいものでした。第七部は特別番組として構成吟「平家物語合戦の場」が上演されました。この作品は故深水芳龍顧問が生前創作され「創立十周年記念日本吟道脚本大賞」を受賞されたものです。深水先生は病魔と戦いながらこの作品を完成され平成二年十二月十四日にこの世を去られました。平成二年十二月号の「日本吟道」にこの作品が掲載されました。日頃から深水先生とゆかりの深い鷲宮教場全員が真心込めて、この作品を演じ先生のご冥福をお祈りしました。「祇園精舎の鐘の聲 諸行無常の響きあり……」とナレーターが人生の無常と人間なればこそ感ずるこの厳粛な気持を哀惜込めて吟ずれば、これを包みこむように吉永龍陽先生の薩摩琵琶の音色がこれに調和し場内はただ感動のるつぽで、寂として声もありませんでした。演ずる人、見る人舞台と会場は一体となり、すすり泣く声も聞こえこの作品を通し深水先生のお人柄が偲ばれました。源平の運命を決した合戦の場面を取り上げ、その中で古くから国民に親炙されている武将や、著名な人物に絞って構成され、歌曲、漢詩吟「青葉の笛」に続き「常盤孤を抱くの囀」書道吟「相川音頭」民謡が入り次々と場面が展開していききました。場面は屋島の合戦に移り情感は最高に盛り上っていききました。ついに合戦の場は壇ノ浦に移り漢詩「壇ノ浦夜泊」が吟じられました。最後にナレーター小泉泰祥師が掉尾を飾って「猛き人も遂には滅びぬ偏に風の前の塵に同じ」と悲しくも美しく吟じ終わり、上演時間四十三分の幕がおりました。涙と感動の素晴らしい作品で万雷の拍手が響きわたりただ感激あるのみでした。第八部、第九部、第十部と進み最後に会長吉永龍洲先生の「歩いてゆけなければ」の吟で全演目は滞りなく終了しました。最後に会員一同「敬天愛人」「吟道報恩」の精神をもって更に吟道に精進していくことを誓って万歳三唱、無事お開きとなりました。

☆ お知らせ

◇日本吟道夏季吟道大学講座八月一日～二日吉永旭城師が講師とされます。

◇南洲吟道会夏季特別講座が八月二十三日前と午後開催の予定になっております。

◇南洲吟道会の吟行会は十一月二十八日と二十九日にあります。事業予定の日が違っております。恐れ入りますがご訂正をお願い致します。

☆ 広報局からのお願い

教場めぐり(リレー探訪)スタートしました。皆様の協力をお願い申し上げます。又会員ひろばへのご寄稿をお待ち致しております。

想い出 (一)
初めて吉永会長を知る

顧問 岩坪博秀 (池尻)

昭和五四年六月二三日、半蔵門会館で第三〇回広幼会が開催された。広幼会と言うのは、明治三〇年に設立せられた広島幼年学校(将来陸軍将校となる者を一三・四歳のときから育成する学校で、第一乃至第六師団司令部の所在地にあつた)の出身者が先輩から後輩に至るまで一堂に会合する会で、終戦後概ね毎年一度催されていたもので、この日も約二百名が、全国から集まって盛会であつた。

私は大正一二年一三才で、第二七期生として入校したのであるが、この年より以前にも二、三回出席した事があつた。

渡された会次第の中で「アトラクション」として次のようなことが書かれてあつた。

- 一 独吟 慎んで將軍の靈に捧ぐ「噫々山下將軍」
岳風流 南洲吟道会会長 吉永洲岳 (広幼四八期)

山下將軍は高知県出身、広幼第四期生で大東亜戦争初期、シンガポール作戦で「マレーの虎」と称讃せられ、報末期でフィリピン作戦に敗れて、戦後軍事裁判で、会刑死せられたのであるが、広幼出身者として敬慕して止まなかつた勇將軍である。

道 従容死に臨んで左の言葉を日本人に遺された。

吟 一 義務の責任を以て、実行する人たれ

洲 二 科学教育に重点をおくことが必要である

南 三 女性教育を重視すること、子供の教育は赤ん坊の時から始まる。良き母親の教育。

私は若い時から詩吟の愛好者だったので、久し振りに、どんな吟が聞けることかと大きな期待を以て待機していた。和服、袴姿の会長は、正に颯爽たる青年武士の俤であり、今もはつきり目に残っている。

朗々と堂を庄して、吟じ始められた「將軍に捧ぐ」に足る名吟に、七〇歳になつていた私には、今まで耳にしたこともない正に胸がすくような思いで唯感激に包まれて酔いしれたように聴き入っていた。

そしてその時に会長が、昭和一九年幼年学校へ入校された頃に、校長以下数百名の職員生徒が居並ぶ大講堂で「大楠公」を吟じて絶賛せられ当時の中国新聞にも載せられた事も知つたのである。

終わって引き続き懇親会になつたのであるが、私はすぐに和服姿で同期生と歓談して居られる会長の側に行き、「素晴らしい吟でした。詩吟は今の日本人の精神昂揚に最高のものと思います。今後の御活躍を心から期待しています。」と酒をつぎながら申し上げた。

私が初めて会長にお目にかかつた日の想い出である。颯爽たる和服姿と朗々たる名吟とが何時までも私の心に刻まれている。



人生百年を生き抜いて来た二人の最後の締め

くくりの言葉「人間大切なのは気力ですよ」

「これがうなつたらおしまいや」

この言葉は吟道精神にいう「人の生や気なり、気竭くれば死す」ということであり、私達吟道にいそしむ者は、吟道を通じて、気を養つてまいりましょう。

八王子教場 橋本清祥



☆ 詩歌投句稿



◎ 中国河西回郎天山路の旅にて

春浅し 火を吐くごとく 火焰山
ゴビ砂漠 青さ波の 屢気楼
春うらら ウィグルの子ら 尻出して

熟年教場 小宮正祥

◎ 赤蜻蛉

夕やけ小やけの 赤とんぼ
負われて見たのは いつの日か

八王子教場 岩波芳洲
歌詞 三木露風



山のはたけの 桑の実き
小籠につんだは まぼろしか

秋気濃やかに 蜻蛉飛び交う

秋気濃 蜻蛉飛交

暮色迫りて 連山紅に映す

暮色迫 連山映紅

蜻蛉を追って 女と遊びし山川

追蜻蛉 女遊山川

幼時を偲び 遙かに故郷を懐しむ

幼時懐 故郷

十五でねえやは 嫁に行き
お里の便りも たえ果てた

